

## 実は優れもの？

### 侮るなかれ、江戸の洗髪料

#### あなたは毎日髪を洗いますか？

今でこそ、おそらくほとんどの人がこの間に「Yes」と答えるだろう。だが、日本において洗髪が日々の習慣となった歴史は浅く、1990年代半ば<sup>1)</sup>のこととされる。江戸時代以降戦後まで、洗髪頻度は平均して月に1～2回、あるいはそれ以下という者も珍しくなく、容色を生業とする遊女や上流階級の女性であってもこの頻度に大差はなかった。これが劇的に変わるのは家庭風呂(内風呂)が普及する1960年代以降のことで、ここでようやく週に数回の頻度となる。しかしながら、浴室内にシャワーが備わり、入浴と同時に、かつ簡便に洗髪できる環境が整うにはさらなる時間を要した。

昔時の日常的なヘアケアといえば梳ること、すなわち歯の細かい櫛で髪を梳き、フケや垢、ゴミなどの汚れを取ることであった。この際、櫛に米のとぎ汁などを付けて梳けば、とぎ汁に含まれる成分サポニンによる多少の洗浄作用が見込めたようだが、頭皮の皮脂汚れや髪のべたつき、これに起因する臭気を根本的に解消するには至らなかった。本誌vol.43で整髪料を取り上げた際、日髪から持髪へ移行していった江戸時代の結髪について触れたが、鬢付け油で固めた持髪の習慣化は梳る頻度をも減少させた。洗髪の手が少なくなり梳る回数さえも減ってしまえばますます不衛生となり、虱の発生ほか種々の頭皮トラブルを招いた。「女の髪の不潔になったのを嗅ぐと小便と同じ臭気がある、或いは小便以上の悪臭である(中略)傍に居ては嘔氣を催す事がある<sup>2)</sup>」との言は、決して大袈裟な表現ではなかったのである。

#### 洗髪はイベント、でも冬場はつらいよ…

右図版は、もろ肌を脱いだ女性が膝立ちで前屈みの体勢になり、湯水を張った金盥に髪を浸し解櫛でほぐしながら洗っているところを描いた錦絵である。かつて洗髪は入浴に伴う行為でなく、縁側または土間、井戸端などに洗髪道具を広げて行なった<sup>3)</sup>。ヘアドライヤーのない時代、洗髪後は手拭などでよく水気を拭き取り自然乾燥が基本、自ずと天気の良い暖かな日を選んだ。そして乾いた髪には、またたつぷりと髪油を塗ったのである。皮脂や整髪料を落とし、サラサラヘアの状態を好ましく思うようになるのは、洗髪が習慣化する後代のことである。事実、「髪を再々あらへば品あしくなる(髪を度々洗うと髪質が悪くなる)<sup>4)</sup>」という従来の根強い認識があった。髪油を塗ったウェットな黒髪を美髪とみなした



「江戸名所百人美女 今川はし」  
三代歌川豊国 画・国立国会図書館蔵

時代性も相まって、洗髪の必要性は低く、むしろ非日常的なイベントの趣さえあった。実際、図版のような姿勢で長く豊かな髪を洗うこと、さらに乾かすことは時間も労力もかかり大変な作業であったろう。とくに冬場は洗髪に不向きで、盥に張った湯が冷めやすく、体も冷えていく。湯を替える手間に加え、風邪をひきかねない心配が付いてまわった。もとより江戸時代は洗髪のために湯を沸かし、潤沢に使うことのできる者は限られた。時代は下って婦人雑誌『主婦の友』(昭和11年/1936・2月号)では、「寒い時の髪の洗ひ方」と題して女性たちの様々な工夫を紹介している。「度々洗いたいとは思

#### 【特集】

実は優れもの？ 侮るなかれ、江戸の洗髪料

#### 【ご案内】

- ・手仕事ギャラリー  
「Authentic Aesthetic  
—岩田俊彦 作品展—」開催
- ・テーマ展示  
「輝く色白肌・色黒肌をつくる！  
キスミーのサンケアヒストリー」開催
- ・紅ニュージアム  
2020年度スケジュール(4-9月期)
- ・文部科学省主催  
「青少年の体験活動推進企業表彰」  
に関する受賞報告

ひますが、寒いときはつい億劫になる」[「寒くて洗うのがいやになります」]「髪が乾くまでに寒くなつて、體からだがぞくぞくして来て困つたものです」。給湯設備やヘアドライヤーの普及にはまだ早く、当時の女性の大半が江戸時代からさほど変わらぬ洗髪環境の中にあったことが伝わってくる。

### 洗髪料の原料と作り方・使い方

肝心の洗髪料であるが、フノリと饅飩粉うどんこ(小麦粉)で調製したものを用いた。江戸時代には貴賤を問わずこれを使用した。

フノリとは布海苔・布糊・海蘿・鹿角菜とも書き、紅藻類フノリ属の海藻である。その用途は、糊料・洗髪料・食用など多岐にわたり、文化財修復の現場では可逆性の接着剤として利用されている。史料上、平安時代(8世紀前半)には国内における糊料としての使用が確認でき<sup>5)</sup>、江戸時代になると奥州(松前・仙台・南部)・伊豆・相模・伊勢・志摩・紀伊・阿波・土佐・豊後・肥前、そして朝鮮、これらの国々の近海が代表的な産地として挙がる<sup>6)</sup>。食用に供する場合は冬季に採れるものが適し、糊料・洗髪料には春以降に採取した原藻を水洗い・天日干したのち方形に裁ち、板状にしたものを用いた。これを板フノリ、または濾フノリという。この加工には炎天を要したため、作業は盛夏(7月~9月)に行われた。板フノリ製造は農家の主要な副業のひとつであり、江戸近郊では葛飾郡上平井村(現 東新小岩・西新小岩)が製造地としてよく知られた<sup>7)</sup>。衣類の洗い張りや障子紙の貼付けなどの糊料、また漆喰を塗る際の接着補強剤などに使われた板フノリは、身近で安価な必需品であった<sup>8)</sup>。

板フノリを洗髪に用いるには、適量を細かく割き、熱湯に浸け、煮溶しかた。あらかじめぬるま湯もしくは水に2~3時間浸け置き、それから煮ると尚良い。フノリ溶液が熱いうちに小麦粉を加え、掻き混ぜる。フノリ溶液はゲル化(凝固)しにくいという性質があり、しかも小麦デンプンに少量でも添加すると大きく粘度が上昇するため、どろりとしたペースト状の洗髪料ができあがる。



乾燥フノリ



板フノリ

『都風俗化粧伝』「髪を洗う伝」(文化10年/1813)では、調製した洗髪料を「熱きうちに髪へよくよく擦り付け、また、手にすくい溜めて髪をよくよく揉めば、髪につきたる油、ことごとく取れる也」と説く。原料から推し量るにシャンプーのような泡立ちは伴わず、髪に塗り付け、よく揉み込んでから洗い流すものだった。洗髪料の洗い残しは臭いの発生源となったから、湯水による複

数回の濯ぎが求められた。なお、後の資料によると、濯ぎには「人肌の温みよりは、少し熱い加減」の湯の使用を推奨している<sup>9)</sup>。これより温ければ「垢がよく落ちません」とあり、皮脂汚れ等を落とす最適温度を考慮すると肯けるものがある。

### 洗浄効果はいかほど?

フノリの主成分フノランは多糖物質(粘質多糖類)であり、中性の硫酸塩である。これはいわゆる台所洗剤(中性洗剤)に共通する成分で、ゆるやかな界面活性作用を持つ。この作用は、油と水のように本来混ざり合わない2つの液体を混ぜ合わせ乳化状態にするもので、要するに頭皮の皮脂汚れや毛髪に付着した髪油などを水中に拡散し洗い流せる状態にすることができたと思われる。加えてフノランは、髪の上に保護膜を形成し、キューティクルを整える効果をももたらした。

一方、饅飩粉の小麦デンプンは、タンパク質に吸着しやすい性質である。毛髪はタンパク質であり、その表面に付着した汚れも一緒に包み込むようにしてデンプンが吸着することで、湯水で濯ぐ際に汚れごと落とせたのではないかと推察する。そしておそらく、フノリ溶液の添加によって上昇したデンプンの粘度が、皮脂や髪油で固まり、ほぐれにくくなった髪に塗り込む上で適度なペースト状を保ち、利便性という点でも奏功したと思われる。前掲『都風俗化粧伝』では、フノリと饅飩粉で洗上げた髪は「色をよくし、光沢を出し、あしきにおいを去る」と、その効果を端的に述べている。すなわち、江戸時代の洗髪料には今日のシャンプーとリンスに類する作用が見込め、一定の洗浄効果を持ち合わせていたとみてよからう。

### 振り返ってみれば優れているのかも

家庭内に入浴設備が整い、洗髪が日々の習慣となった今日、かつてのようにフケや垢、虱などの頭皮トラブルはすっかり消えた。シャンプーのキャッチコピーに“フケ・かゆみに効く”といった類の文言がみられなくなって随分と久しい。近年は、洗髪頻度が多いゆえの悩み、シャンプーの高い洗浄力によって却って頭皮・毛髪を痛めることが新たなヘアケアの問題となっている。使用上の簡便さこそ伴わないが、その点にさえ目をつむれば、長く豊かな黒髪の女性が支持したかつての洗髪料こそ、理に合った髪に優しいシャンプー&リンスと言えまいか。

- 1) ただし、これに該当する年齢層は10~20代の女性。花王株式会社の調査による。
- 2) 『化粧のをしへ』東京化粧研究会、明治41年(1908)
- 3) 湯屋では大量の湯を使う洗髪を禁止した。昭和20年代においても銭湯で洗髪する場合は追加料金を取るところがあった。
- 4) 『女重宝記』元禄5年(1692)
- 5) 正倉院文書 天平11年(739)8月11日写経司解(『大日本古文書』二所収)
- 6) 江戸時代のフノリの産地については『毛吹草』(正保2年/1645)ならびに『和漢三才図会』(正徳2年序/1712)を参照。
- 7) 当地の板フノリ製造に従事する農家は天保3年(1832)に68軒(村の総軒数143)、安政5年(1858)に66軒、慶応2年(1866)に61軒を確認できる(『増補 葛飾区史』上巻、昭和60年/1985参照)。
- 8) 前掲『和漢三才図会』では板フノリの有用性について「大いに民の利と致す」と記す。
- 9) 『化粧かゝみ』(『婦人世界』臨時増刊号第2巻第5号、明治40年/1907)

## 手仕事ギャラリー「Authentic Aesthetic —岩田俊彦 作品展—」

2020年5月30日(土)－6月28日(日)開催 観覧料無料

「日本伝統の技」を未来へ繋ごうとする活動や、途絶えた伝統技法の復元に尽力する取り組みなどを支援するため、2018年よりはじめた「手仕事ギャラリー」は今年3年目を迎えます。

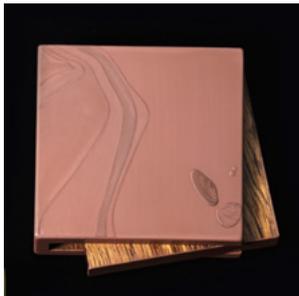
本年は、艶やかな美しさを持った堅牢な塗料、接着剤として、美術工芸品から日用品に至るまで様々な形で親しまれてきた漆工芸の技巧を用いつつ、既成の概念にとらわれない独自の色彩感覚とデザインで美術作品を制作する漆芸作家 岩田俊彦氏の作品展を開催します。

本企画では、岩田氏を象徴する大型のフラットパネル作品と、新たな手法で偶発的な美を楽しむ作品、そして岩田氏の両世界観を紅板と融合させ生まれた作品をご紹介します。



「アンタイトルド」

岩田氏のパネル作品は、線や紋様を描いた平面に植物や昆虫などが独自の色彩感覚で構成され、一見無機質な印象を受けます。しかし、画面上に浮かび上がる僅かな漆の厚みや色艶、線の揺らぎが、素通りできない一瞬の逡巡を残し妖美な毒を放ちます。また、家紋をモチーフとしたシリーズでは、そのまま平面に描いただけ

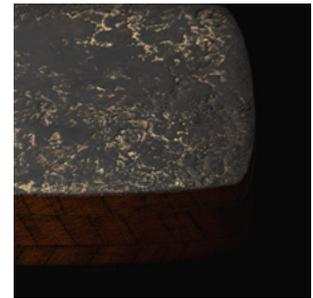


紅板 モチーフシリーズ「カイニナミ」

では現代に作品として意味をなさないほど既に美しく完成したデザインである家紋を、「生活に漆を取り入れたときに、現代にどう構成していくか」というフィルターを通し再解釈することで、他にないインパクトのある作品に昇華させています。

明確な完成予想図がありそのゴールに向かって作り上げていく漆工芸本来の技法で制作する一方で、現在、岩田氏は偶然性の面白さを追求した作品も手掛けています。

下地を活かし、錆を付け、漆を含浸し、研ぐ。2年ほど前からはじめたマチエールシリーズでは、精巧の両極であるアバウトさを受け入れて、人為的ではない新たな漆の表情を引き出しています。



紅板 マチエールシリーズ

Authentic-正統な技術-とAesthetic-稀な感性-

によって日常の中にくすぶるような余韻を残す岩田氏の創作の世界を、ぜひこの機会にご堪能ください。

[作家プロフィール]

岩田俊彦 / Toshihiko IWATA

1970 神奈川県鎌倉市生まれ

1999 東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻卒業

2008 「モンブラン ヤングアーティスト バトロネージ イン ジャパン」  
モンブラン銀座本店

2010 「漆 そのあたらしい表現を巡って」喜多市美術館

2012 「漆芸 軌跡と未来」東京藝術大学大学美術館

2014 「KIZASHI」ポラミュージアム アネックス

2017 「会津・漆の芸術祭2017」福島県会津若松市

2019 「日本漆山脈」阪急うめだ本店

### コラボレーション紅板のご案内

本企画のために、岩田俊彦氏に特別に制作していただいた紅板作品を2020年5月30日より展示・販売いたします。紅を携行するための紅板は、江戸時代、趣向を凝らし贅を競って詠えられました。岩田氏のアートワークが今様の逸品となります。作品を手にする喜びと共に、使うほどに味わいを増す漆の手触りは、粧いのひとときを特別なものにしてくれることでしょう。今回の紅板作品は、一般社団法人 ザ・クリエイション・オブ・ジャパン(CoJ)が行う「企業」と「つくり手」を繋ぐプロジェクト「つくるフォーラム」をご縁に制作されました。

### テーマ展示「輝く色白肌・色黒肌をつくる!キスミーのサンケアヒストリー」

2020年3月31日(火)～7月19日(日)

「日焼け」という概念が本格的に意識されたのは明治に入ってからのことです。しかし、紫外線を防止するサンケア商品が日本で誕生するのは1920年代のことであり、それまでは日傘や帽子、バニシングクリームなどを使って肌を守っていました。

伊勢半がサンケア商品を作りはじめるのは昭和36年(1961)、日本に「紫外線」という言葉が定着し、サンケア商品の必要性が高まった頃です。今日、サンケアは透明感のある色白肌・健康的な小麦色肌、いずれを目指しても美肌づくりに欠かせない習慣になりました。今展は、時代と共に発展していったキスミーサンケア商品から1960年以降の美肌色の移ろいを映し出します。

キスミーサンキラーシリーズ(1997～2002年) ▶



## 紅ミュージアム 2020年度スケジュール(4-9月期)

2020年4月1日(水)10:00 申込み受付開始 ※お問い合わせフォームでの申込みは4月2日(木)10:00から受付

申込み方法:電話(03-5467-3735)・来館・伊勢半本店HPお問い合わせフォーム ※はすべてお申込みが必要です。

| 開催日     |         | 展示会・講座・イベント                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2020年4月 | 開催中     |  テーマ展示「輝く色白肌・色黒肌をつくる!キスミーのサンケアヒストリー」[~7/19(日)]                                                                                                                                         |
| 5月      | 16(土)   |  「白い歯と黒い歯の粧い」~歯科医が語る歯みがきとお歯黒の歴史について~<br>14:00~15:30 講師:大野肅英氏(神奈川県歯科医師会「歯の博物館」館長・歯学博士)<br>定員20名・参加費500円<br>★本講座に関連して、5/12(火)~6/14(日)の期間限定で「房州砂」「紅入り歯磨き粉」を展示します<br>(協力:神奈川県歯科医師会「歯の博物館」) |
|         | 30(土)~  |  手仕事ギャラリー「Authentic Aesthetic 一岩田俊彦 作品展」[~6/28(日)]                                                                                                                                     |
| 6月      |         |  手仕事ギャラリー関連イベント開催予定 ※別途、当館webサイト等でご案内します。                                                                                                                                              |
| 7月      | 11(土)   |  「組紐体験講座」~紅染めの絹糸を組み上げる~<br>①13:30~14:30 ②15:00~16:00<br>講師:福田隆太氏(株式会社龍工房)<br>定員各8名(小学1年生~一般) ※保護者は付き添いのみも可<br>参加費3,500円(紅染めのミサンガ制作)                                                    |
|         | 21(火)~  |  テーマ展示「伊勢半の輸出用化粧品にみる昭和のデザイン(仮)」[~11/29(日)]                                                                                                                                             |
| 8月      | 10(月・祝) |  夏休み子ども自由研究「紅ってなあに」<br>①10:30~12:00 ②14:30~16:00 講師:当館エディューケーター<br>定員各5組10名(小学3・4年生とその保護者)・参加費無料                                                                                      |
|         | 19(水)   |  夏休み子ども自由研究「赤色?黄色?? 紅染めにチャレンジ!」<br>①10:30~12:30 ②14:30~16:30 講師:当館エディューケーター<br>定員各8組16名(小学生とその保護者)<br>参加費1,000円/組(ハンカチと深山和紙の染色体験)                                                    |
| 9月      | 19(土)   |  「和のパーソナルカラー講座」 ※初参加の方を優先とします<br>14:00~16:00 講師:吉田雪乃氏(一般社団法人伝統色彩士協会 代表)<br>定員10名・参加費2,000円                                                                                           |

※都合により、開催日時や内容の変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

### 文部科学省 令和元年度「青少年の体験活動推進企業表彰」にて審査委員会奨励賞を受賞!

この度、伊勢半本店は、子どもたちの体験活動に関する企業の優れた取組みに対し、文部科学省が行っている「青少年の体験活動推進企業表彰」にて「審査委員会奨励賞」を受賞いたしました(エントリー74社/優秀企業10社、審査委員会奨励賞8社)。対象となった事業は、2018年夏休みに実施した、親子ワークショップ「いろのふしぎ」~さわって・えがいて・みんなでみよう~(本誌vol.47にて詳述)です。これからも、子どもたちが歴史や伝統文化などについて関心を持つきっかけとなるよう、楽しく学べる講座を企画して参ります。

「さわって・えがいてワークショップ」(2018年8月16日実施) ▶



紅ミュージアム  
BENI MUSEUM

Presented by  
KISSME

開館時間/10:00-18:00(最終入館は17:30まで)

休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日休館)・創業記念日(7月7日)・年末年始

入館料/無料 ※ただし、企画展観覧は有料

アクセス/地下鉄 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 B1出口(階段)より徒歩12分/  
B3出口(エスカレーター・エレベーターあり)より徒歩13分

バス 渋谷駅東口バスターミナル 51番乗り場 都01新橋駅前「南青山七丁目」停留所下車

〒107-0062 東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL.03-5467-3735

最新の情報は当館webサイトでご確認ください。 <https://www.isehanhonten.co.jp>

